

表 4. 免疫疾患におけるニューモシステイス肺炎予防基準

一次予防	
●年齢 50 歳以上	
●ステロイド薬投与例	PSL 1.2mg/Kg/ 日以上 あるいは PSL 0.8mg/Kg/ 日以上で免疫抑制薬使用 中止基準 PSL 0.4mg/Kg/ 日以下
●免疫抑制薬投与例	PSL 0.8mg/Kg/ 日以上併用 あるいは 末梢血リンパ球数 500/ μ l 以下 中止基準 PSL 0.4mg/Kg/ 日以下併用 あるいは 安定して末梢血リンパ球数 500/ μ l 以上
二次予防	
●発症例全例	
中止基準	一次予防と同じ
*予防法	
(1) ST 合剤 (TMP/SMX) 1.0g/ 日~ 4.0g/ 週 (2.0g/ 回) ~ 8.0g/ 週 (4.0g/ 回)	
(2) イセチオン酸ペンタミジン吸入 300mg/ 月~ 300mg/ 2 週	
(文献 3 より引用, 一部改変)	

部は新生児へ移行する。薬剤服用後、少なくとも 4 時間は授乳を避ける、長時間作用型の薬剤は使用しない。

おわりに

ステロイド薬は、膠原病治療において中心的役割を果たすが、使い方によっては副作用のため患者を苦しめることとなる。その特徴を理解し、上手く使いこなし、効果を最大限引き出すとともに、副作用を最小限に抑える努力を続けることが臨床家の務めと考える。

文 献

- 1) 諏訪 昭：ステロイド薬, 外来全科痛み治療マニュアル. 高木 誠, 他編. 第 2 版, 三輪書店, 東京, 2004, 44-68.
- 2) 市川陽一：糖質コルチコイド薬 使い方の要点. 日本内科学会雑誌 86:1394-1399, 1997.
- 3) 猪熊茂子：免疫疾患に合併するニューモシステイス肺炎の予防基準. 厚生労働省免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 免疫疾患の合併症とその治療法に関する研究班 (橋本博史班長) 平成 14-16 年度研究報告書, 2005, 35-40.
- 4) 諏訪 昭, 他：ステロイド性骨粗鬆症のモニタリングと予防・治療. Medical Practice 22:477-479, 2005.
- 5) 熊谷俊一：ステロイド性骨粗鬆症の予防と治療. 厚生労働省免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 免疫疾患の合併症とその治療法に関する研究班 (橋本博史班長) 平成 14-16 年度研究報告書, 2005, 41-47.